第7号　発行日　令和2年11月6日
青森県立弘前南高等学校サイエンス

弘前南 SSH 通信　CELESTE

◇データ分析・情報処理に関する講義・実習

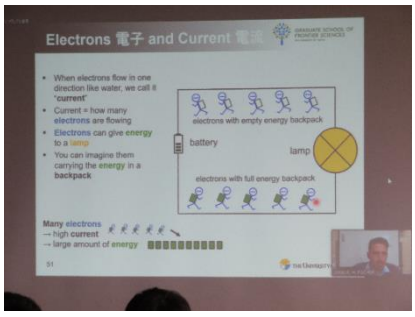
8月26日（水）　対象：2年次 SSH クラス生　場所：情報教育教室

8月26日（水）青森大学角田均教授からデータの取り扱い、基本的な統計量、母集団とサンプル、推定・検定について講義及び実例による演習を行いました。昨年度よりも1時間長く実施したため、生徒が PC で Excel を使って演習する時間を十分に確保でき、新たに統計的仮説検定についても解説していただくことができました。

【生徒感想抜粋】

・データの平均値や最頻値、中央値の良いところや使い方などが分かった。
・課題研究のまとめやその他 SSH 活動で、データをまとめる機会がたくさんあると思うので、有効に活用したい。
・課題研究に限らず、普段扱う数字などのデータを積極的に調べ、知識の幅を広げていきたい。
・統計学では記述統計学と数理統計学があり、それぞれ違う働きがあることが分かった。

◇Science Dialogue



10 月9日（金）　対象：2年次 SSH クラス生　場所：地学実験室

10月9日（金）5～6校時南陵ゼミⅡの時間に、日本学術振興会特別研究員の Jonas K. H. FISCHER 博士を講師に招き、zoom で「Finding new materials for fast and energy-efficient computers of the future」という題で講義していただきました。生徒たちは事前に、講義に関連する物理の磁石に関する基本的な知識や、keyword を英語で学習しました。講義前は、英語で最先端の研究内容を聞いて理解できるのか不安だったようですが、博士がクイズ等を活用したり、流暢な日本語を使って補足説明してくださったことで、生徒なりに講義を理解しようと積極的な態度で受講していました。また質問タイムでは、講師本人への質問や研究する上での心構えなど多岐にわたる質問が出て、活発な講義となりました。

◇Cultural Presentation（南陵ゼミⅡ）

9月2日（水）　対象：2年次 SSH クラス生　場所：情報教育教室

9月2日5～6校時に、各班に分かれて日本文化について英語で発表を行いました。身近な文化に関する発表を通じて、海外科学交流に必要な英語での発信力や英語によるコミュニケーション力を養うことを目的に、4月から南陵ゼミの時間以外にも放課後の空き時間を活用して準備してきました。1年次2月に行った留学生との交流会以来久しぶりの英語でのプレゼンテーションだったので、生徒たちはだいぶ緊張していましたが、一生懸命調べたことをスライドを活用して発表していました。ALT や英語科教員からの質問に、何度も聞き返しながら英語で答えようとしていました。英語で自分の考えを伝えたり、聞く人の立場に立って発表する難しさを実感したようです。

【各班のテーマ】

班	発表内容
1 班	Japanese Traditional Culture, KABUKI
2 班	Tsugaru Dialect
3 班	Japanese School Life
4 班	History of People and Festivals
5 班	Japanese Pop Culture
6 班	About Bunaco（History, Unique Points and Products）
7 班	About Japanese Sports
8 班	Japanese Toilets Are Amazing!
9 班	About Hirosaki City
10 班	Japanese Food（Washoku）

【生徒感想抜粋】

・スライドを見やすく作ったつもりだったが、ビデオで確認したら文字が小さすぎたり、内容が多すぎた。
・先輩のように、相手と対話するような感覚でプレゼンができなかった。
・はっきり英語を話し、相手とのコミュニケーションを意識すれば良かった。
・落ち着いて考えたら理解できたのに、質疑応答が上手くできなかった。